



富士山学習授業公開

12月8日(木)、第4回富士山学習研究会において、大石小4年を対象に、小佐野裕治教諭とゲストティーチャーの富士山科学研究所の佐藤望先生による、富士山学習の授業公開が行われました。当日は、研究員だけでなく、町の関係者・富士宮市教育委員会の方々の参観もありました。

本時のねらい「資料を見て、新倉掘抜が必要だった当時の新倉や河口湖畔の人々の暮らしについて興味をもち、新倉掘抜について予想することができる。」

学習のポイント「ねらいに対して、大きく7点のアプローチの仕方の工夫」

- ① ペア学習による資料の読み取り
- ② ワークシートの活用
- ③ 大石地区にかかわる資料の発掘(町総務課など)
- ④ 昭和58年の河口湖の増水体験ビデオ
- ⑤ 立体模型での簡易実験
- ⑥ ICT機器を利用した視覚をとおした学習
- ⑦ なぜ?の疑問を解決するためのゲストティーチャー佐藤望先生(富士山科学研究所)とのTT授業



学習を振り返って 前年度の研究成果を踏まえ、研究会の先生方が単元の全体構想も含めて指導案の検討を重ね、本日の授業となりました。いくつもの工夫により、「どういうこと…」「ああそうか…」「もしかしたらこれは…」というような思いが生まれ、学習問題を見出してくる授業となり、今後の展開が一層楽しみになってきたように思います。史跡館見学も深く学ぶ資料となるのではないのでしょうか

各学校で、この研究成果に学び、子ども達、家族をとおして、地域に根付いていくことができれば、さらに、先人の願い、知恵や勇気、惜しみない努力や働きにより河口湖新倉掘抜を完成させた住民が、伊東市の池地区の隧道工事を完成させ、新田開発に貢献し、今日に至っているということから、池地区との交流も生まれたらと、富士山学習研究会の取り組みに大きな夢と意義を感じずにはられません。



富士山カアップ

～専門機関との連携や出前授業～

町内の各小学校では専門機関との連携による出前授業がなされています。例えば、船津小では、富士山科学研究所の学年に応じた実践的な教育プログラムを活用して、全学年が、富士山や身近な自然・動植物について学習したそうです。小立小では、富士山世界遺産センターのキッズスタディプログラムを活用した出前授業を実施したそうです。富士山学習が深まりを見せています。町の生涯学習課とも連携し、子ども達の富士山カアップに大きな役割を果たしています。

理科・環境教育副読本 完成間近! 編集委員の先生方が、話し

合いや資料収集に苦心し、多くの方のご協力を得て無事脱稿し、印刷所に届けまし

た。「クニマス」「火山防災」などの最新情報が入っているそうです。大いに活用してもらいたいです。

